

④スナフキン。ヘッドセンターに属するのは⑤名探偵コナン、⑥マスオさん、⑦サザエさんが属します。

ガッツセンターの人たちは、他者の言葉を耳では聞いていません。話を全体で感じ取るタイプで、「私は〜と感じる」という言葉をよく使う傾向にあります。また、「現実には抵抗すること」にこだわる傾向にあり、自分の領域とそうでないものとの間に壁を設けることで、自分が完璧であるという感覚をつくらうとします。さらに共通しているのが、「激しい怒り」を抱えている人が多いことです。

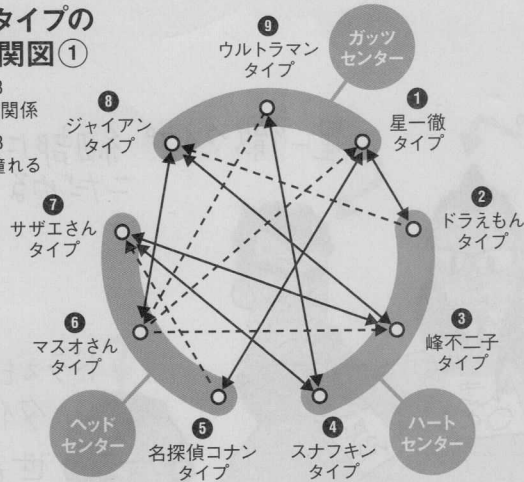
ハートセンターの人は情報を心・感情で受け止めようとします。自分のイメージに対して大きなこだわりを持ち、たとえ偽りであっても自分でつくり上げた自己像に執着し、自分のことを低く評価する人に対してはあまり関心を払いません。感情を表に出しすぎるタイプで、「私は〜と思う」という言葉をよく使う傾向にあります。

ヘッドセンターの人は、他者とは距離をとり、感情に流されず論理的思考をするので「私は〜と考える」という言葉を好んで使います。

相性のいい人が集まる組織は、人間関係はスムーズにいくかもしれませんが、発想の意外性や深みが生まれません。できればセンターの違う三人がうまく連携することが望ましい。諺にあるように三人寄れば文殊の知恵とはよ

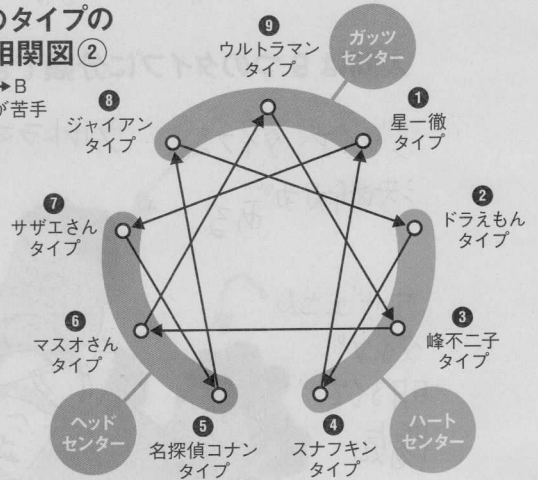
9つのタイプの相性相関図①

A ↔ B
互いにいい関係
A - - - -> B
AがBに憧れる



9つのタイプの相性相関図②

A → B
AはBが苦手



くいつたものです。

相性を知って 人間力向上 業務も活性化

苦手な人とは、どう付き合えばよいのでしょうか、とよく質問を受けますが、まず、前提として「すべての人は正しい」と考えてください。

気質とは人間の自我、つまりエゴです。エゴは価値観という言い方もできますが、価値観に善悪や優劣はないという考え方を持つことが大切です。マスオさんはマスオさんで生きていいし、ジャイアンはジャイアンの生き方をすればいい。ジャイアンにマスオさんになれるのはよりよいジャイアンであり、よりよいマスオさんです。多様性というのは人間においては自我の違いなのです。能力の多様性は本質の多様性でもあるのです。

人間はどうしても自分のタイプを基準に物事をとらえてしまいます。ですから、自分では正しいと思ったメッセージが誤っている場合も多い。

ある企業の創業者が、「昇進は実力主義！ やる気のある若者募集！」と威勢のよい求人広告をしたのですが、何回採用してもみんな辞めてしまう。

分析してみると反応して応募してきたのはジャイアンタイプばかり。お山の

大将が大勢集まってもうまくいくはずがありません。誰にメッセージを発するかで言葉の選び方、訴えるポイントが変わってきます。

人との接し方も一緒です。目を見て大きな声で話せ、といわれることも多いのですが、これが通用するのはガッツセンターの人々です。ハートやヘッドセンターの人は目を合わせたり、大きな声には萎縮してしまいます。

そもそも、なぜ苦手かという点、自分と全く逆のものを持っているからです。星一徹タイプにとってサザエさんタイプは、ものすごくいい加減に見える。しかし実は不足している点、学べべきものを、サザエさんが持っているということなのです。つまり、自分の先生。先生というのは苦手なものです。学べべきものがこの人にあるから苦手と感じるのか、と気が付けば、前向きな関係が結べるはずなのです。

がんばってコミュニケーションをよくしようと努力する必要はありません。互いの気質を理解することによって、人間関係、信頼関係、コミュニケーション力が高まり、組織としての業務も活性化するので。



●やすむら・めいし
一九五八年、秋田県生まれ。
性格心理学研究者。エニアグラム
コーチング代表。一般社団法人
日本コミュニケーション協会代表理事。
近著に「自分の「性格説明書」9つのタイプ」。

P